日本行動計量学会会報 第 60 号 1994 年 3 月 15 日

# 行動計量学会報

日本行動計量学会（理事長 水野欽司）
事務局：〒152 目黒区大岡山 2-12-1
東京工業大学工学部繁桝研究室

## 意思決定の行動計量学

繁桝算男

意思決定問題は，学際的な問題である．哲学，経済学，心理学，社会学，統計学，知識工学，人工知能等々の分野で研究されている．しかし，同じ意思決定問題を扱っているといってもそのアプローチはかなり違っていそうである．たとえば，経済学や統計学で，抽象的な合理的人間の決定を問題にしていることが多いのに対し，心理学や，社会学では，生身の人間の実際の決定行動を記述しようとする．これは，規範的 (normative) アプローチと記述的 (descriptive) アプローチの違いである．また，実際に役にたつ意思決定の支援システムを構築しようとする場合は，規範モデルと記述モデルの両方を考慮にいれる必要がある．実際の人間の能力の不十分性を前提とした最適化をはからなければならないからである．このような立場を，処方的 (prescriptive) アプローチということがある．また，この 3 つのアプローチは互に独立に発展するということはあり得ない．現実の意思決定の種々の問題を解くには，特に一つの立場や学問分野にこだわらず，ひらりひらりと柔軟に立場や視点を変化し統合化する方がよいと考える．

行動計量学も学際的な領域である．学問分野の違いよりも方法論的な共通性を大切にして，自由な新しい発想を基に研究していこうという分野である．意思決定の問題は行動計量学の研究者の格好の研究対象であると思う．

学際的ということは便利な隠れ蓑にもなりうる．例えば，計量心理学の研究者が，心理学の仲間の中では，統計学者の顔をし，統計学者の中では，心理学者の顔をするのでは，存在感が薄くなる．しかし，真に学際的な研究者は，どの問題であれ，その問題を攻略する中心的なリーダーにならなければならないと考える．意思決定問題が，諸科学のクロスロードになっているとすれば，行動計量学者は，その十字路にたって各実質科学の知見を通覧し，交通整理をする役目を担うことが期待される．

行動計量学が担う意思決定のモデルは，堅い数理的基盤の上にたちながらも，人間の実際の決定をよい方へと導き鼓舞するような人間くさいものであればよいと思う．有名な人間学的心理学者 Maslow は，自己実現にいたるための 8 つのヒントをあげているが，そのひとつは，人生を決定の連続としてとらえ，個々の決定において，前向きの (progressive) 決定を選び，後ろ向きの (regressive) 選択肢を拒否することをあげている．行動計量学は，数理科学の枠組みにおいて正当化されることを前提として，その上にこのような深い人間に関する知見を持ち，人間の実際の意思決定に影響を与える指針を用意できるような学問であることを望む．無味乾燥な数理的体系と人間に関する洞察を統合することは困難ではあるがやりがいがありかつ必要とされることであろう．

(しげます かずお，日本行動計量学会理事)

## 功績賞を受賞して 岩坪秀一

今回の功績賞受賞については，特別な思いがあります．学会賞選考委員会委員長は，故脇本和昌先生でした．そして9月3日午後の総会で先生から過分のお言葉を頂いて間もない4日未明，先生は大阪のホテルで急逝されたのです．総会終了後，親しくお話しした際の先生の笑顔が，今でも鮮明に瞼に残っています．

実は，功績賞候補になった報告を委員会から受けたとき，辞退申し上げました．理由は，私自身学会賞の規約を作った人間であり，個人的信条として作成者が貰うわけにはいかない，と考えていたからです．そのとき，脇本委員長がわざわざ私の研究室まで来られて，粘り強く諄々と説得されました．ついに，この方を苦しめては申し訳ない，という気持ちになってしまいました．私の受諾に，脇本先生は「よかった，よかった」と心から嬉しそうなご様子でした．

最近の学会で気になっていることがあります．一種のサークルみたいなものが出来ていてそれに疎外感を抱く会員がいること，若い会員間にこの学会は怖いという意識があることなどです．会員は平等でなければなりません．そしてどんなことでも分け隔てなく話し合えるようでなくてはなりません．

脇本先生は，心の広い実におおらかな方でした．どんな人にも誠意をもって親切を尽くされました．私は学会賞を頂きましたが，あくまで一会員に徹して，これからも皆さんと一緒に頑張り，そして出来るかぎり若い人たちに親切を尽くしたいと思います．それが故脇本委員長からの功績賞に報いる道だと考えております．

(いわつぼ 秀一，日本行動計量学会理事，大学入試センター)

## 優秀賞を受賞して 大津起夫

今回，思いもかけないことに行動計量学会の優秀賞をいただき，たいへん嬉しく感じています．私が Behaviormetrika (No. 28) と行動計量学 (18巻1号) に発表した2つの論文は，いずれも数量化法に関連した話題を取り扱ったものです．前者はある種の規則的な人工データについて数量化3類 (双対尺度法) の解を解析的に得る方法を示しました．この問題については L. Guttman の古典的な研究を始め丘本正先生，岩坪秀一先生の仕事が既にありますが，この論文ではデータの周辺度数によって内積が定義されるベクトル空間上の直交多項式を用いることにより，簡明な形で解が得られることを示しました．このような研究が直接データ解析の現場に役にたつ訳ではないと思いますが，多変量データを直交多項式に分解して表現する方法は，その後の研究にも有益でした．一方，後者の論文を書いた動機は，フランスのグラフィックデザイン研究家である J. Bertin の仕事に感銘を受け，これと多変量データ解析の方法とを結び付けようと考えたことにあります．Bertin の仕事は数理的なデータ解析の理論に裏付けられたものではありませんが，極めて独創的であり，豊富な経験に基づいています．

今後，多くの現場で有効な実践的データ解析の方法を作り出せるよう，努力を重ねて行きたいと考えています．皆様のご指導をよろしくお願いいたします．

(おおつ たつお，北海道大学文学部)

## 会議記録

### 平成 5 年度第 3 回理事会

日時：平成 5 年 9 月 2 日 17 時～19 時
場所：大阪大学人間科学部 2 階大会議室
出席者：水野 (理事長)，生澤，池田，岩坪，海野，岡太，上笹，駒澤，田栗，柳井，繁桝 (事務局)

1. 前回議事録の確認
2. 会員の移動について：1 名の入会を承認した．
3. 行動計量学会大会について
4. 選挙管理委員会の発足について：本年 12 月までに次期理事の選挙を終了する方針を決定した．選挙管理委員 3 名の人選については理事長に一任した．
5. 各種委員会報告：編集委員会，運営委員会より活動状況について報告があった．
6. 今後の活動方針について：長期滞納者，学会名簿に掲載すべき事項について審議した．
7. その他：次期学会賞選考委員会委員長を柳井理事に決定した．

### 平成 5 年度第 4 回理事会

日時：平成 5 年 11 月 22 日 18 時 20 分～20 時
場所：大学入試センター
出席者：水野 (理事長)，市川，岩坪，江川，岡太，上笹，杉山，田栗，馬場，肥田野，村上，柳井，繁桝 (事務局)

1. 前回議事録の確認
2. 会員の移動について：8 月 1 名，9 月 4 名の入会者，ならびに 7 月 2 名，8 月 2 名の退会者を承認した．
3. 第 22 回大会の準備状況について：上笹理事より，特別講演の候補者，ならびにシンポジウム，ワークショップのテーマの候補について経過報告があった．ナイトセッション，講演会についても検討することが提案された．
4. 次期役員選挙について：宮埜会員を委員長とし，屋井，中村会員の 3 名からなる選挙管理委員会のもとで次期役員選挙をおこなうことが報告された．
5. 各種委員会報告：和文誌編集委員会ならびに欧文誌編集委員会より，雑誌の編集状況について報告があった．
6. 今後の活動方針について：岡太理事を座長とするワーキンググループで，次回の理事会までに学会の活性化にむけた提言をまとめることとした．
7. その他

## 協賛する学会等のお知らせ

講習会 (有料)「ファジィ＆ソフト・コンピューティング—柔らかな情報処理システム構築技術と実践的応用—」
日時：平成 6 年 3 月 8 日 (火) 10:00～17:30
会場：大阪大学工業会館 (大阪市北区堂島 2-2-2 近鉄堂島ビル 20 階)
定員：40 名 (先着順)
申込先：日本ファジィ学会事務局 (担当:荒木)
〒 231 横浜市中区山下町 89-1 シイベルヘグナービル 3 階
TEL. 045(212)8253 FAX. 045(212)8256

第 10 回ファジィシステムシンポジウム (記念大会)
日時：平成 6 年 6 月 1 日 (水)～4 日 (土)
場所：関西大学 100 周年記念会館 (大阪府吹田市)
論文発表原稿締切：平成 6 年 1 月 17 日 (月) 必着
参加料：協賛学会正会員 12,000 円 (事前)
申込先：日本ファジィ学会事務局 (担当:荒木)
〒 231 横浜市中区山下町 89-1 シイベルヘ

グナービル 3 階
TEL 045(212)8253
問い合わせ先：田中英夫 (実行委員長) 大阪府立大学工学部経営工学科
TEL 0722-52-1161(内線 2376) FAX: 0722-59-3340

## 関連するシンポジウム等のお知らせ

名称：シンポジウム「地球環境の統計」
日時：1994 年 4 月 20 日 (水) 午後 1:30〜5:00
場所：統計数理研究所講堂 (港区南麻布 4-6-7 地下鉄日比谷線広尾駅下車)
講演
時岡達志 (気象研気象研究部)
地球温暖化予測とその検出.
西岡秀三 (国立環境研地球環境研究センター)
地球環境と情報.
竹内啓 (東京大学先端研)
地球統計の概念.

## 会員による著書

飽戸弘 (1993) コミュニケーションの社会心理学，筑摩書房.

渡部洋編著 (1993) 心理検査法入門，福村出版.

## 会報担当者より

会員の声，会員による著書，会報への御意見等は，下記宛てにお願いいたします.

〒 114 北区西ケ原 4-51-21
東京外国語大学外国語学部
市川雅教

# 平成５年度予算

| 収　　入 | 平成５年度予算 | 平成４年度実績 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| 前年度繰越金 | 5,959,426 円 | 6,185,305 円 | |
| 学術定期刊行物補助金 | 780,000 | 740,000 | |
| ５年度学会費 | 7,700,000 | 8,336,300 | |
| 学会誌売上金 | 300,000 | 292,302 | |
| 預金利子 | 30,000 | 44,551 | |
| 雑収入 | 0 | 303,503 | |
| 学会賞基金からの副賞 | 150,000 | 150,000 | |
| 計 | 14,919,426 | | |

| 支　　出 | 平成５年度予算 | 平成４年度決算 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| 学会誌制作費 | 8,239,610 円 | 6,103,867 円 | （注1）平成4年度未発行分 |
| 和文誌 19巻2号 （注1） | 1,000,000 | 871,380 （注2） | |
| 〃 20巻1号 （注1） | 1,000,000 | 1,174,200 （注3） | （注2）18巻2号 |
| 〃 20巻2号 | 1,000,000 | 0 | |
| 〃 21巻1号 | 1,000,000 | 0 | （注3）19巻1号 |
| 欧文誌 Vol.20,No.1（注1） | 1,439,610 | 1,479,647 （注4） | |
| 〃 Vol.20,No.2 | 1,400,000 | 1,249,250 （注5） | （注4）No.30 |
| 〃 Vol.21,No.1 | 1,400,000 | 1,329,390 （注6） | （注5）Vol.19,No.1 |
| シンポジウム費用 | 100,000 | 20,000 | （注6）Vol.19,No.2 |
| 各種委員会活動費 | 500,000 | 480,000 | |
| 学会事務委託費 | 1,790,000 | 1,745,023 | （注7）名簿印刷費を含む |
| 管理費 | 140,000 | 140,000 | |
| 発送手数料 | 1,400,000 | 1,346,365 | （注8）名簿郵送費を含む |
| 新入会員・移動処理 | 100,000 | 86,200 | |
| その他 | 150,000 | 172,187 | |
| 人件費 | 100,000 | 21,250 | |
| 印刷費 | 930,000 （注7） | 74,345 | |
| 通信費 | 1,500,000 （注8） | 1,325,126 | |
| 消耗品費 | 35,000 | 5,299 | |
| 会合費 | 150,000 | 143,995 | |
| 雑費 | 20,000 | 23,630 | |
| 予備費 | 1,304,816 | 0 | |
| 選挙費 | 100,000 | 0 | |
| 学会賞副賞 | 150,000 | 150,000 | |
| 計 | 14,919,426 | | |

# 平成4年度会計決算報告

日本行動計量学会

自 平成4年4月 1日

至 平成5年3月31日

| 収入 | 決算 | 予算 | 増減 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 前年度繰越金 | 6,185,305 円 | 6,234,320 円 | △ 49,015 円 | (注1) 寄付金 |
| 学術定期刊行物補助金 | 740,000 | 740,000 | 0 | |
| 4年度学会費 | 8,336,300 | 7,400,000 | 936,300 | |
| 学会誌売上金 | 292,302 | 30,000 | 262,302 | |
| 預金利子 | 44,551 | 20,000 | 24,551 | |
| 雑収入 | 303,503 (注1) | 0 | 303,503 | |
| 学会賞基金からの副賞 | 150,000 | 150,000 | 0 | |
| 計 | 16,051,961 | 14,574,320 | 1,477,641 | |

| 支出 | 決算 | 予算 | 増減 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 学会誌制作費 | 6,103,867 円 | 9,400,277 円 | △ 3,296,410 円 | (注2) 平成2年度未発行分 |
| 和文誌 18巻2号 | 871,380 (注2) | 871,380 | 0 | |
| 〃 19巻1号 | 1,174,200 (注3) | 1,000,000 | 174,200 | (注3) 平成3年度未発行分 |
| 〃 19巻2号 | 0 | 1,000,000 | △1,000,000 | |
| 〃 20巻1号 | 0 | 1,000,000 | △1,000,000 | (注4) 欧文誌編集幹事会 100,000 円 |
| 欧文誌 No. 30 | 1,479,647 (注3) | 1,479,647 | 0 | 和文誌編集幹事会 100,000 円 |
| 〃 Vol. 19, No. 1 | 1,249,250 (注3) | 1,249,250 | 0 | 運営委員会 80,000 円 |
| 〃 Vol. 19, No. 2 | 1,329,390 | 1,400,000 | △ 70,610 | 小グループ研究会 200,000 円 |
| 〃 Vol. 20, No. 1 | 0 | 1,400,000 | △1,400,000 | |
| シンポジウム費用 | 20,000 | 120,000 | △ 100,000 | |
| 各種委員会活動費 | 480,000 (注4) | 620,000 | △ 140,000 | (注5) 事務連絡費，コピー代，消費税 |
| 学会事務委託費 | 1,745,023 | 1,540,000 | 205,023 | |
| 管理費 | 140,000 | 140,000 | 0 | (注6) 第20回大会 |
| 発送手数料 | 1,346,636 | 1,150,000 | 196,636 | |
| 新入会員・移動処理 | 86,200 | 100,000 | △ 13,800 | (注7) 学会事務センター発送分 |
| その他 | 172,187 (注5) | 150,000 | 22,187 | 1,259,392 円 |
| 人件費 | 21,250 (注6) | 50,000 | △ 28,750 | |
| 印刷費 | 74,345 | 170,000 | △ 95,655 | 事務局通信費 65,734 円 |
| 通信費 | 1,325,126 (注7) | 950,000 | 375,126 | |
| 消耗品費 | 5,299 | 50,000 | △ 44,701 | |
| 会合費 | 143,995 | 100,000 | 43,995 | |
| 雑費 | 23,630 | 10,000 | 13,630 | |
| 予備費 | 0 | 1,414,043 | △ 1,414,043 | |
| 選挙費 | 0 | 0 | 0 | |
| 学会賞副賞 | 150,000 | 150,000 | 0 | |
| 次年度繰越金 | 5,959,426 | | | |
| 計 | 16,051,961 | 14,574,320 | 1,477,641 | |

監査の結果、事実のとおり

相違ないことを証します。

監事 宮原守男

監事 開原成允